

# スコープを広げ、 公共に奉仕する土木を構築しよう

大石 久和

土木学会第105代会長



「われわれの暮らしは国土に支えられ、暮らしの利便性の多くが国土に何らかの手入れをすることによって獲得できています。」

有史以前の昔から、先人たちは貧しいなかでも困難な国土の状況の改善に努力をしてきました。その成果を受け継ぎ、われわれはいま土木を用いて現在と将来の世代が、より安全に、より効率的に、よ

り快適に暮らし続けていけるように努力しています。

それは過去の世代に見合う努力なのでしょうか。そして、それは世界の人びとの努力に比して遜色ないレベルにあるのでしょうか。土木の成果は人びとの暮らしに反映できて初めて生きてくるものですが、人びとはより安全で、より豊かになったのでしょうか。

土木人は土木を相対化して見ることができると視野と視力を求められています。それは土木が土木に閉じるのではなく、土木は「公共による公共への奉仕」という開放系にあるからなのです。この奉仕の精神こそ、土木人が持つべき哲学と考えます。

従来の土木の世界から一歩出て、もっと広く土木を眺める勇気

と気概を持ちましょう。そして広がりや量と質において「今の土木がそれでよいのか」を考えていきましょう。

伝統ある土木学会は次の100年を念頭に走り始めています。学会を担う広範な会員の皆様のご支援とご協力を糧に努力して参ります。皆様のご指導・ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。